

8回新しい農村政策のあり方に関する検討会（資料）

「働き方をデザインする」

～海士町らしい「承前啓後」を貫く～

「承前啓後」とは、昔からのものを受け継いで、未来を切り拓くことの意

海士町は
どんなところ？

1島1町の小さな離島



日本海の島根半島沖合約60Kmに浮かぶ
隠岐諸島の中の一つ中ノ島を「**海士町**」
といい1島1町の小さな島。
(面積33.52 km²、周囲89.1km)



半農半漁の島



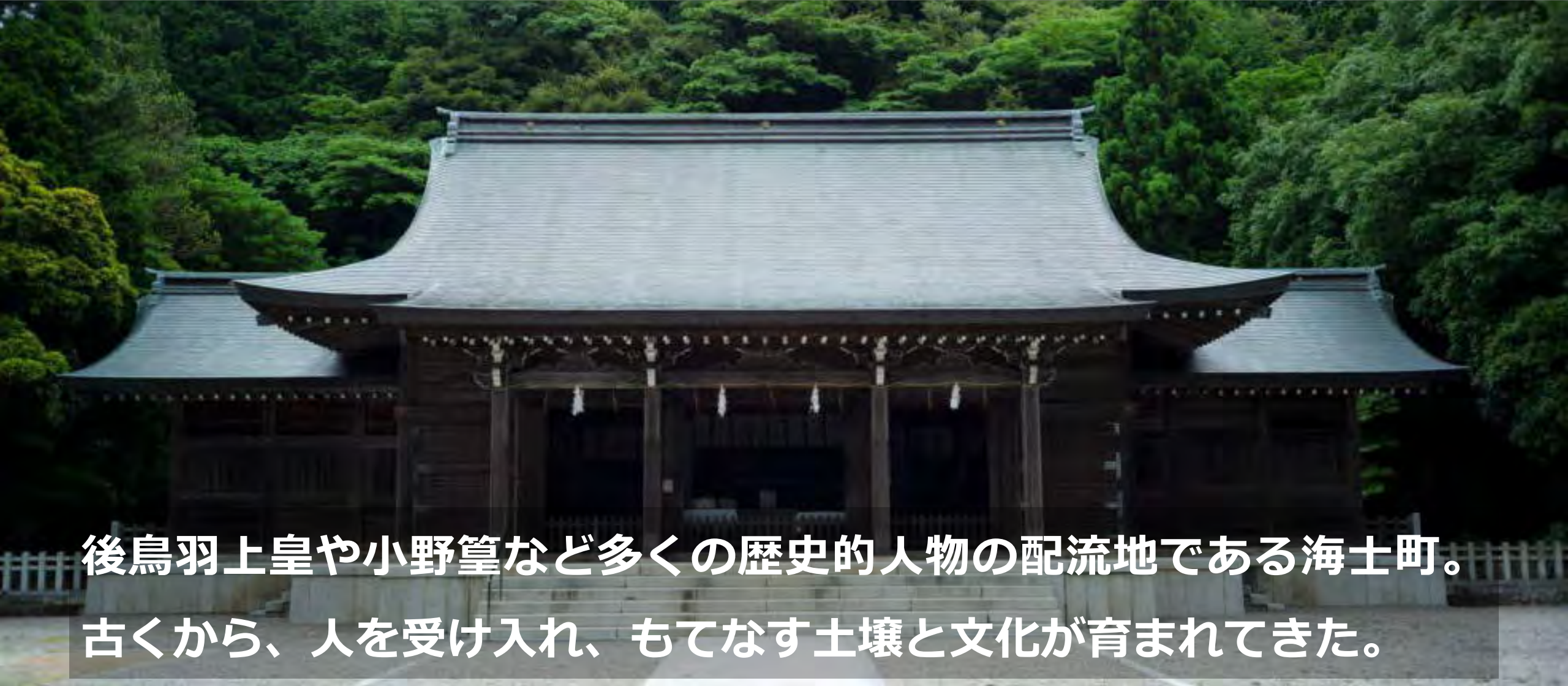
対馬暖流の影響を受けた豊かな海と、名水百選に選ばれた豊富な湧水に恵まれ、自給自足のできる半農半漁の島。

御食つ國 海士

平城京跡から隱岐國・海士の「干しアワビ」等が献上されていたことを示す木簡が発見される。

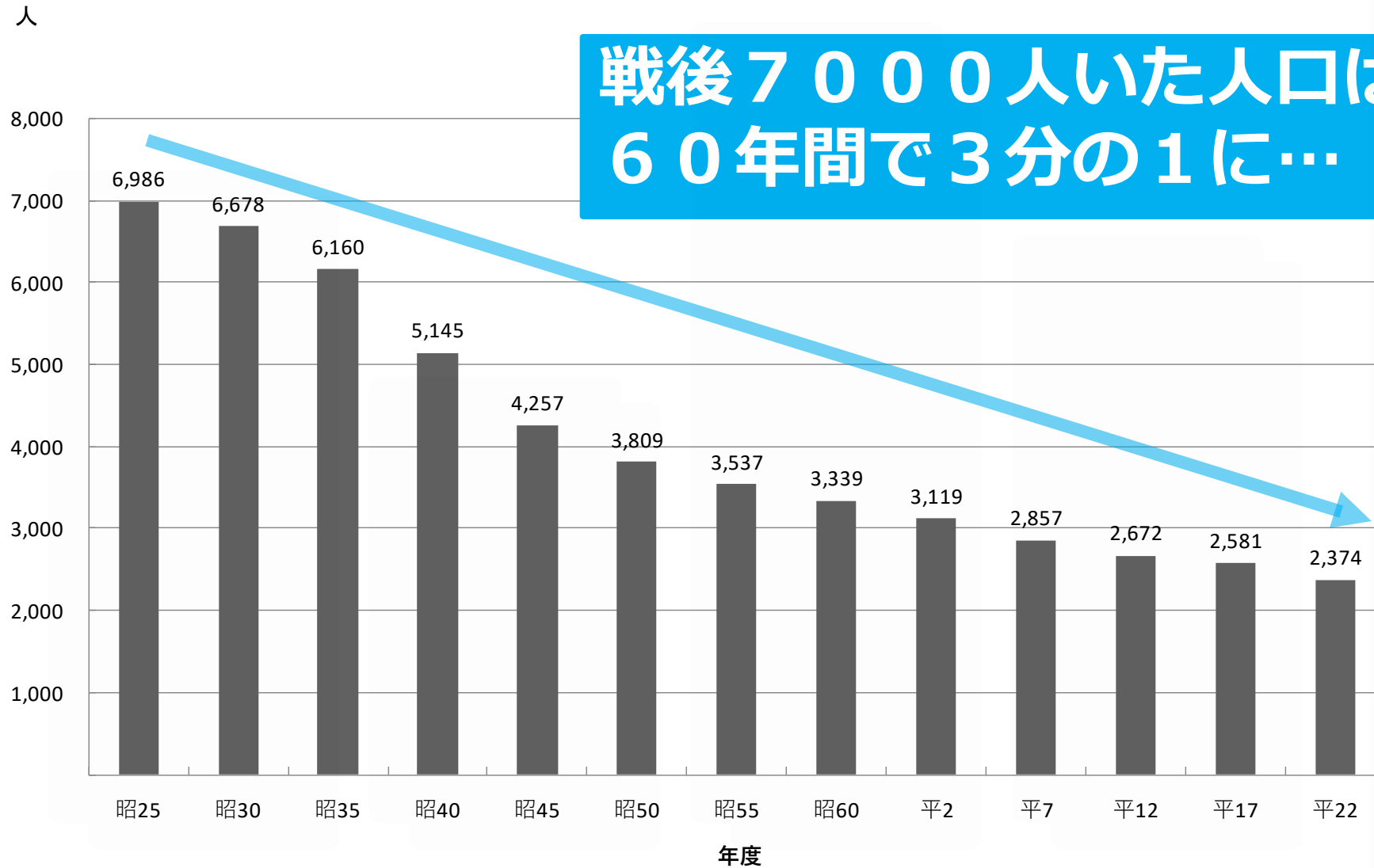
※御食つ國：朝廷に海水産物を中心とした御食料を貢いだと推定される国

人を受け入れる土壌と文化

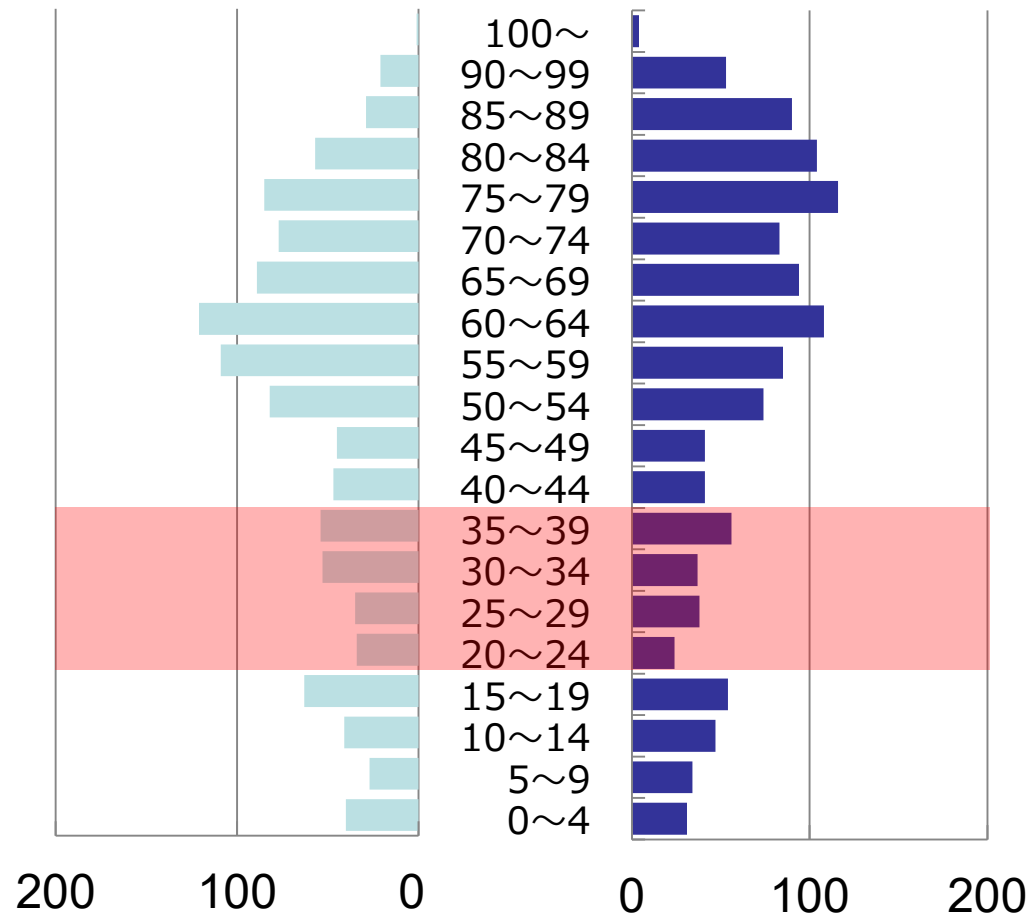


後鳥羽上皇や小野篁など多くの歴史的人物の配流地である海士町。
古くから、人を受け入れ、もてなす土壌と文化が育まれてきた。

人口減少



超高齢社会



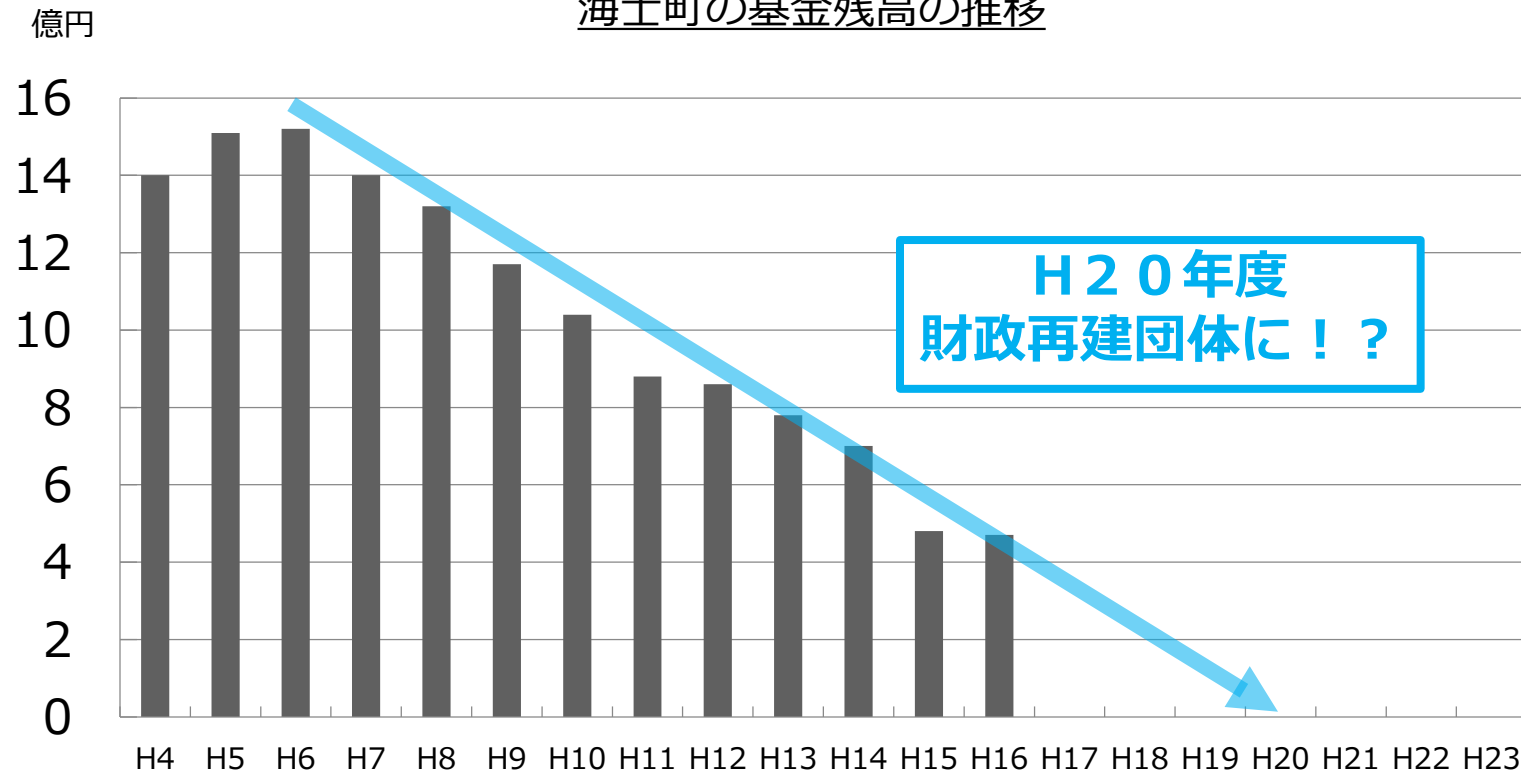
高校卒業後、ほとんどが島外へ。
20~30代の地域活力が極めて低い。

高齢化率は41%

生き残りをかけた挑戦

島が消える…地財ショックの到来

海士町の基金残高の推移



H16年の三位一体の改革による地財ショックが発生。



さあ、どう生き残る？

徹底した「守り」の戦略

自らの身を削らない改革は支持されない！

日本一給料の安い公務員に！

50%～40%

30%～16%

40%

40%

10%

5%を目的化

産業振興策による「攻め」の戦略

資源を活かした
しごとづくりへの挑戦



若者との交流による
まちづくりへの挑戦



教育魅力化による
ひとづくりへの挑戦



これまでの海士町の取り組みは…

真新しいことはせず

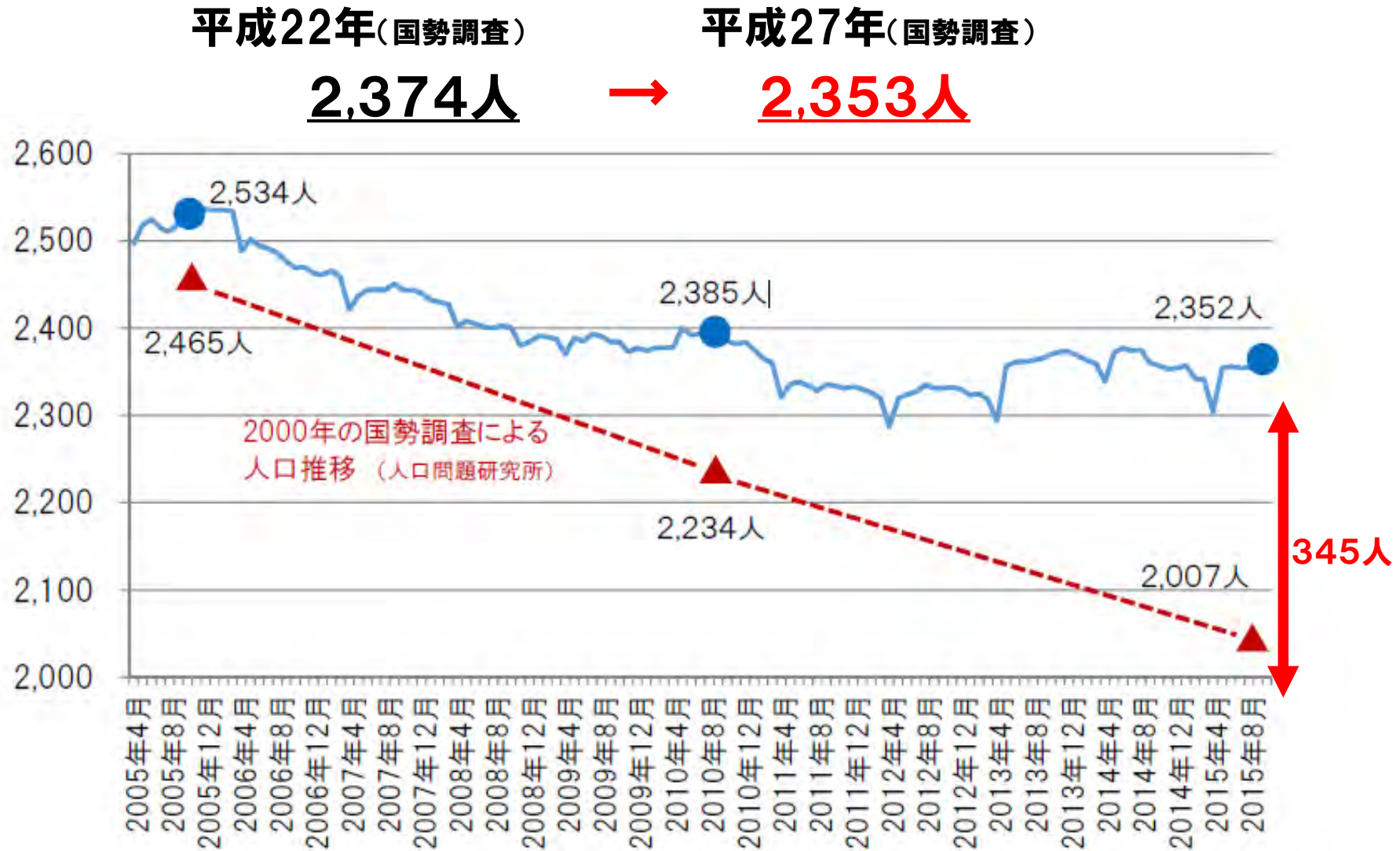
今ある資源を磨き、
交流を通じて挑戦を展開

続々と島に集結 人材が人「財」に



全国から40代以下の移住者が続々と集結！
※平成16年度～令和2年12月末の17カ年で
移住者779人（558世帯）
定着率約46% 今や人口の1割強が移住者

人口減少へ歯止め



一定の成果をあげてきたが…

しかしながら…さらなる課題が山積

- ・ 産業を担う人材不足
- ・ 農林水産業の後継者不足
- ・ 文化や歴史、島の風土を受け継ぐ人材不足

自立・挑戦・交流 継承・団結

「しゃばる」とは、海士の方言で、「強く引っ張る」という意味。

海士町らしい「承前啓後」を貫く新たな挑戦

①職員による半官半Xの推進

AMAホールディングス”の取り組み

①
職員（公務員）による
半官半Xの推進

多様な働き方を促し地域振興に資する“制度”①

海士町半官半X推進における目的と定義を定める条例 を制定（令和2年3月17日海士町条例第1号）

役場職員が庁舎内で行うデスクワークの働き方に加え、
庁舎を飛び出し、現場に足を運び、町民とともに汗を流し、語り合う中で、
現場の課題を一緒に解決する力を身につけたり、
地域の担い手という自覚をより強めながら、
多様な仕事に挑戦できるよう働き方改革を推進する制度

多様な働き方を促し地域振興に資する“動き”①

①攻めの実行部隊を整備

- ・ 役場の産業機能を本庁から島の玄関口「菱浦港」のフェリーターミナル内の事務所に配置
- ・ 365日特殊勤務シフトにより、役場職員が毎日早朝に生産者のところに出向き「野菜」を集荷
- ・ フェリーターミナル内の直売所で農水産物を販売することで島民と来島者との交流を生み出す

②食品加工会社への出向

- ・ 町の第三セクター「ふるさと海士」の立ち上げに役場職員が支援
- ・ 漁業の現場、漁師、生産者のところに出向き「魚介類」を仕入れ
- ・ 仕入れ、加工、保管、出荷、また全国各地や世界へ向け営業販売促進などに従事

③役場職員採用試験に「半官半X」枠を新設

- ・ 令和3年度の役場職員採用試験の「半官半X」枠に11名が応募し4名を採用
- ・ 新たな部署（仮称：担い手創出課）を創設し、半官半X職員を配置する予定
- ・ 様々な業種や職種を横断的に移動することで地域の課題解決につなげる

②

官民連携による「攻め」の
政策を担う事業会社
“AMAホールディングス”の
取り組み

多様な働き方を促し地域振興に資する“動き”②

AMAホールディングス株式会社

観光、教育、産業、行政などそれぞれの分野の中で、より早い意志決定、より強い連携を行うため、海士町長を代表取締役として設立
海士町の「攻め」の政策を担う事業会社として、
外貨獲得および町内還元のため、現在はふるさと納税事業と未来投資事業を主な事業としている。

- ・ 取締役（島内民間経営者3名、島外民間経営者1名）、正社員1名、契約社員2名
- ・ まちづくりを行政主導型から官民連携型にシフト（民が官の仕事をする、これもまさに半官半X）

一般社団法人海士町未来投資委員会

昨年の条例改正でふるさと納税の寄付額の一部を原資とした未来投資基金の運用を始めるために「一般社団法人海士町未来投資委員会」を設立。

町民の皆様が島の未来を創るための地域振興事業にチャレンジする際に、

資金の援助や事業へのアドバイスなど、伴奏者として寄り添いながら事業を応援。

そして、寄付された皆様に対して、定期的に事業の進捗状況を報告することにより、寄付された皆様が海士町の挑戦に応援団として関心を寄せていただくことで、関係人口の拡大に結びつくものと期待。

③

働き方をデザインする
“海士町複業協同組合”

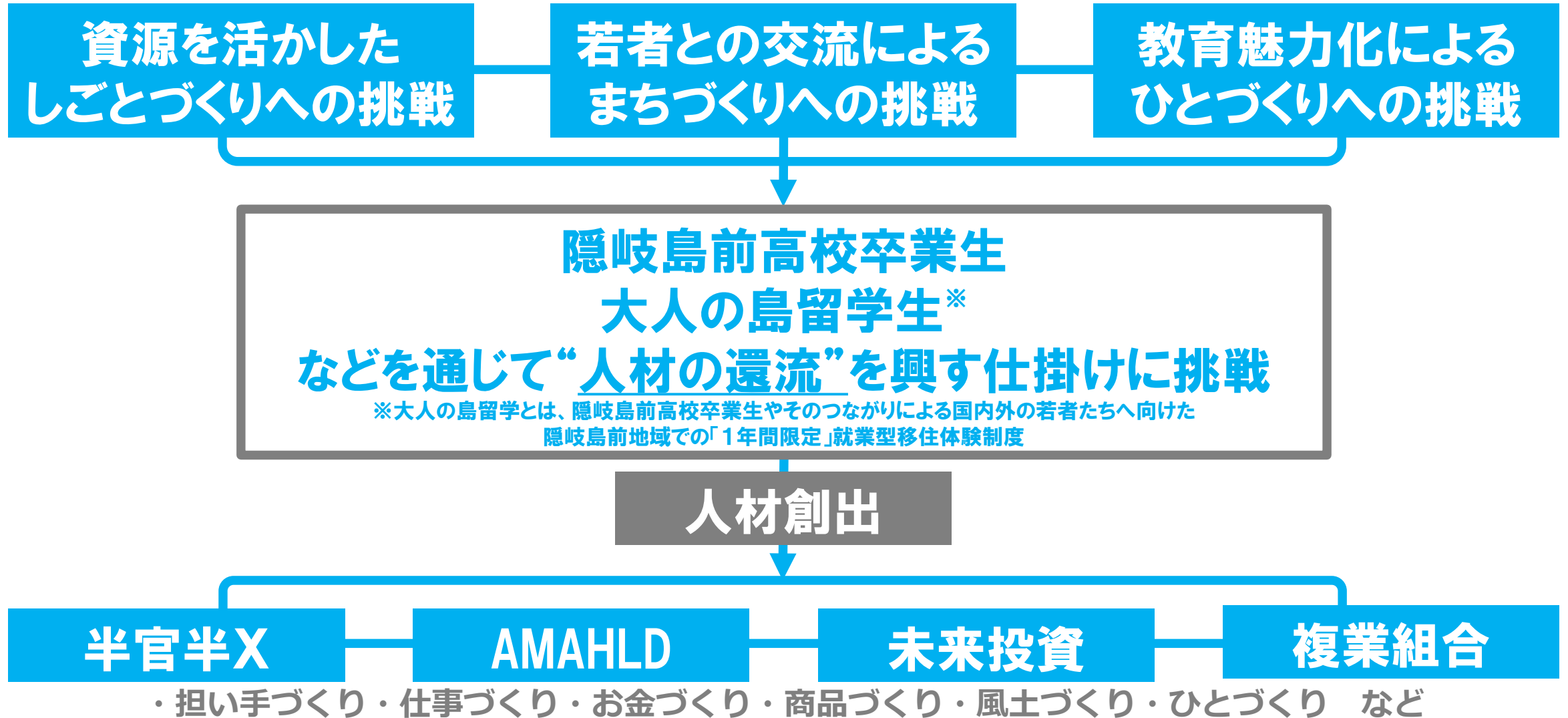
多様な働き方を促し地域振興に資する“制度”②

海士町のマルチワーカーをモデルとして創設された 特定地域づくり事業の法律制定に基づき “海士町複業協同組合”を全国第一号で設立

同組合は、複数の事業者が連携し、季節毎の仕事量に応じて組合職員を派遣するもので、年間を通じた雇用と人材育成に取り組む。

こうした働き方は、海士町が古来から行ってきた半農半漁という暮らし方に類似する。役場並びに組合職員自らが、海士の歴史や風土に学びながら、合わせ技で働き方をデザインし、チャレンジしていくことで、町内事業所はもちろん、地域の価値や魅力が高まり、UIターンの促進に大きく寄与するものと考えている。

人材の還流を興す

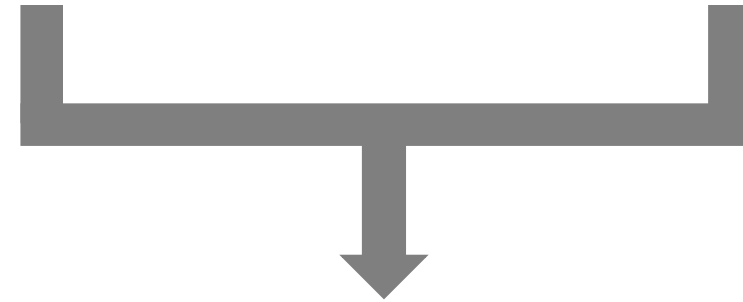


ないものはない



● なにも「ない」

● すべて「ある」



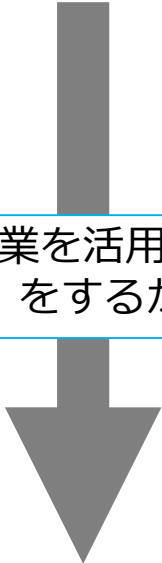
便利なものはなくても
人が生きていくために
大切なものはすべてここにある

参考資料

海士町複業協同組合 概要

設立の目的

令和2年6月4日「地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業推進に関する法律」が施行され、認定を受けた組合は、職員のマルチワークに対し支援を受けれるようになった。



特定地域づくり事業を活用するにあたって、
職員が複業（マルチワーク）をするからこそできることは何だ？

「組合員間のつながりの発見による新事業の創出」
「組合員の魅力を再発見することによる新たな価値の創出」

組合の名称など

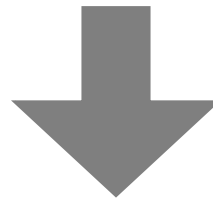
組合名	海士町複業協同組合（あまちょうふくぎょうきょうどうくみあい）
発起人	5名 （株）ふるさと海士・（株）海士・飯古建設（有）・（株）風と土と・（株）ゆうでん
出資金	10,000円／口
役員 （5名）	代表理事 奥田 和司（株）ふるさと海士） 副理事 飯古 晴二（飯古建設（有）） 理事 青山 敦士（株）海士） 〃 浅井 峰光（株）風と土と）※員外 監事 波多 誠（株）ゆうでん）
事務局長 （派遣元責任者）	太田章彦（常勤）

働き方をデザインする

海士町複業協同組合の面白いところ

**組合員が
多種多様**

- ・ (株) ふるさと海士 (魚介類の加工販売・塩づくり)
- ・ (株) 海士 (ホテル・レストラン・小売店)
- ・ (株) 風と土と (地域づくり・メディア・人材育成)
- ・ (株) ゆうでん (農業※予定)
- ・ 飯古建設 (有) (定置網漁師)



様々なニーズに沿えるように



月に1度
働きたい場所や働き方の
ニーズをヒアリング

いつ・どこで・どういう期間と単位で？

それぞれの
複業プランを構築

1年目は島を知る時間

- 1年のうちに、3か所以上の事業所で働く
- 1か所あたり、3カ月以上の期間の勤務

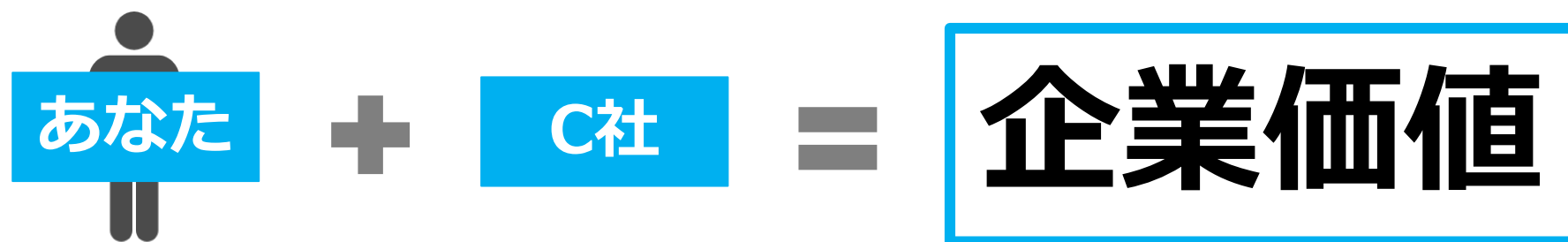
インプット

2年目は島に入り込んでいく

- 1年のうちに2か所以上の事業所で働く

海士町複業協同組合が複業に求めるもの

組合員間の業務に対する新たな繋がり発見による新事業の創出



挑戦する島の体現化

海士町複業協同組合は、働き方をデザインできる“場”を確立することで、複数の生業による多種多様で新たな働き方づくりに挑戦できる地域としての魅力を高めていきます。